

令和3年度 武蔵野市地域自立支援協議会全体会（第2回）

## グループディスカッション ワークシート

グループ名: E

【テーマ】「武蔵野市の地域課題の解決に向けた協働の在り方について  
～新たな部会での活動を通して～」

### テーマ 1-1：課題の共有

#### 「各部会の活動報告を受けて」

- ・地域移行部会が実施中の「精神科病院へ長期入院している方に関する実態調査（アンケート調査）」は、これまで実施していない調査であり、協議会ならではの取り組みであると感じる。
- ・今年度、部会が再編されたことで、それぞれの部会がより地域課題に特化して検討できているのではないかな。
- ・地域移行部会と地域生活支援拠点部会の課題は、直結するものがある。地域移行部会が実施しているアンケート調査の結果から、課題の解決が見えてくるものがあるのではないかな。
- ・ネットワークを大事にしながら各部会で考えていくことや、部会同士で情報を共有することで自分の引き出しが増え、課題の解決につながっていくのではないかな。
- ・差別解消部会の活動が印象的。普段関わることのない職業の方や一般の人々への啓発は続けていかなくてはいけないと感じる。コロナ禍で啓発していくかは課題である。
- ・当事者にとっては、課題は今も進行中である。スムーズな課題の解決につながるよう、自立支援協議会の活動だけでなく、日々の中で何ができるか考え行動する必要がある。
- ・障害当事者部会であがってきた声が、課題に直結していると感じる。当事者部会での声は、親会であがってはいるがもう少し丁寧に吸い上げて、強調できると良いのではないかな。

### テーマ 1-2：課題の共有

#### 「武蔵野市の地域課題とはなんだろう」

- ・毎年、様々な声が上がっていると思うが、施策にまではなかなか至っていないように感じる。施策につながる何かが見つかるとうれしい。
- ・課題は沢山あるが、解決につながるような体制づくりまで持っていきたい。それを考えるのがこの場ではないかなと感じる。
- ・地域生活支援拠点部会で視察した国分寺市では、例えば「緊急」の現状等を基幹相談支援センターが集約の上、自立支援協議会へ情報を報告し、自立支援協議会が課題をまとめて市に報告する仕組みづくりがあった。行政と当事者の声、事業所、現場から上がってくる声等を集約するようなシステムがあると良い。
- ・予防の視点は重要である。普段の支援の中でも、地域生活が送れなくなる課題が見えてくるように感じている。いかに普段の支援でニーズを拾い上げていくかが重要と感じる。

## テーマ2：目標設定

「テーマ1-2で共有した地域課題の解決に向けて、新たな部会での活動を通して活動できること・協力できることはなんだろう」

### 解決の道筋を作っていくしくみづくり

- ・各部会のミッション、当事者の声とリンクすることも見えてきた。
- ・ヘルプカードの逆バージョン（支援者側視点であると役立つ等）のようなものの作成を考えてみる等様々な視点から考えることが重要と感じる。
- ・やはり連携が大事。
- ・地域移行部会が実施しているアンケート調査の結果をどのように活かしていくかが鍵となる。
- ・精神・発達障害のある方は、知的障害の方と比べ、体験の場が少ない。また、軽度知的障害の方の体験の場が少ない等の意見はあるが、データの裏づけがない。アンケート調査の結果より、裏づけがとれることがあれば、地域生活支援拠点部会のミッションにも活かせるのではないかな。

### リアルタイムで共有できる機会

- ・様々な声を何とか施策に反映していきたい。計画の策定委員会が始まってからのタイミングでは遅いと感じる。市の担当は異動があり、年度が替わっても各部会の意見が流れるようなことがないように、各部会員の年度の最後に各部会の声をまとめ、策定委員会の前に声を集約して施策に反映できると良い。

### 施策に反映できるようなグループの存在

- ・施策に反映することは重要だが、各部会では難しい。親会ではなく俯瞰的に見れるような会があると良い。

### 当たり前のできる環境づくり

- ・計画の示す地域課題以外にも、感じる課題は沢山ある。そういう声を上げて普段の日常生活に反映されると良い。
- ・障害者が長期入院となる前に長期入院とならないような地域づくりができると良い。当たり前に使っているバス等が当たり前に見えるような生活し易い環境になると良い。